

荏原病院 クリニカルインディケーター

1 病院全体の指標					
指標項目	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	定義、指標計算方法等	説明コメント
延べ入院・外来患者数 平均在院日数 病床利用率（運用病床）	106,034 人	106,726 人	110,194 人	延べ入院患者数：退院患者数+当日末在院患者数	1年間の延べ入院患者及び1年間の延べ外来患者の数です。
	192,695 人	184,213 人	180,826 人	延べ外来患者数：初診患者数+再診患者数	
	11.5 日	12.0 日	12.0 日	平均在院日数：延在院患者数÷(新入院患者数+退院患者数)÷2 ※亜急性期病床、地域包括ケア病棟を除く	1人の患者さんが平均何日間入院しているのかを示す指標です。地域の医療機関と連携などによって、短期間で退院できるよう努めています。
	(一般) 69.6 %	(一般) 67.1 %	(一般) 69.3 %	病床利用率：延入院患者数÷延運用病床数×100 (医療法上の区分)	病床利用率とは運用病床数に対し、入院患者がどのくらいの割合で入院していたかを示す指標であり、病床利用率が高いことは、ベッドを効率的に運用していることを表しています。病床の機能により違いがあるため、一般、精神、感染症病床別に率を出しています。
	(精神) 33.6 %	(精神) 59.0 %	(精神) 76.0 %		
	(感染) 45.4 %	(感染) 44.5 %	(感染) 44.6 %		
剖検率	5.3 %	7.8 %	6.6 %	年間剖検数÷年間患者死亡数	当院で死亡された患者さんの中で病理解剖がなされた割合です。病理解剖は死亡の原因や治療の効果を確かめ、今後の医療に役立てていく意義があります。
CPC（臨床病理検討会）実施件数	11 回	9 回	11 回	年度内の開催実績数	医療の質向上を図るために行っている、勉強会の1つであるCPC（臨床病理検討会）を開催した件数です。
クリニカルパス実施状況	41.3 %	39.9 %	44.1 %	実施率：パス適用件数÷新入院患者数	入院から退院までの治療や処置、検査、看護などのスケジュールを時系列に示したクリニカルパスの作成を通じて、わかりやすく均質で無駄のない医療の提供に努めています。
2 手術に関する指標					
指標項目	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	定義、指標計算方法等	説明コメント
内視鏡検査件数、主な処置件数	①(1)1,721 (2) 103 (3) 60 (4)1,239 ② 480 件	①(1)1,600 (2) 132 (3) 87 (4)1,241 ② 466 件	①(1)1595 (2) 106 (3) 71 (4)1,211 ② 456 件	①検査数 ((1)上部内視鏡、(2)膵臓・胆管系、(3)気管支鏡、(4)下部内視鏡) ②治療数（再掲）	内視鏡検査と治療の件数です。検査については、①食道、胃などの上部、②膵臓・胆管、③気管支、④大腸などの下部に種類を分けております。
● 鏡視下手術件数	① 18 ②249 件	① 43 ②289 件	①外科 20 ②外科 129 泌尿器科 1 産婦人科 173 件	①胸腔鏡下 ②腹腔鏡下	腹腔鏡、胸腔鏡を使って行う手術の件数です。腹部や胸部に小さな穴を開けて行うので、体にかかる負担が軽く、回復が早いこと、また美容的にも優れているという利点があります。平成30年度実績から各科別にて算出しております。
3 がん医療に関する指標					
指標項目	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	定義、指標計算方法等	説明コメント
外来化学療法件数	901 件	826 件	990 件	外来で化学療法を実施した件数(外来化学療法加算)	抗がん剤を使用した化学療法の件数です。外来での治療は自宅での生活を続けながら治療を行うことができるため、精神的、経済的な負担低減にも寄与します。
放射線治療件数、症例数	件数 1,962 件 症例数 79 件 (内訳) IMRT 件数 0 件 症例数 0 件 (内訳) 定位 件数 0 件 症例数 0 件	件数 2,066 件 症例数 88 件 (内訳) IMRT 件数 0 件 症例数 0 件 (内訳) 定位 件数 0 件 症例数 0 件	件数 1,958 件 症例数 109 件 (内訳) IMRT 件数 0 件 症例数 0 件 (内訳) 定位 件数 0 件 症例数 0 件	放射線治療件数、症例数 高エネルギーX線装置による通常の照射とIMRTの1回目の放射線管理料を取得した数、及び定位の患者数。（小線源治療は除く）	放射線は手術、抗がん剤とともにがん治療における重要な役割を果たしています。リニアック等の放射線治療装置を使用して、放射線治療を行った件数及び症例数です。
● 緩和ケアチーム活動実績	50 回 135 件	50 回 123 件	50 回 112 件	緩和ケアチームカンファレンス実施回数・症例検討数	主にがん患者と家族に対して緩和ケアを提供するために、身体・精神面の症状緩和、家族ケア、療養場所の選択など多職種チームでカンファレンスを実施した実績です。
4 救急医療の指標					
指標項目	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	定義、指標計算方法等	説明コメント
救急患者数（1日あたり）	55.4 人	54.2 人	51.8 人	(救急入院患者数+救急外来患者数)÷年間営業日数	救急医療は当院の重点医療のひとつであり、休日・全夜間診察事業を引き続き実施するなど、積極的な患者受入に努めています。
救急搬送受入件数	4,606 人	4,615 人	4,451 人	救急患者のうち、来院方法が「救急車」の患者数	

荏原病院 クリニカルインディケーター

5 放射線及び検査に関する指標					
指標項目	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	定義、指標計算方法等	説明コメント
緊急対応可能検査項目数及び緊急対応可能検査項目数の割合	検体: 67/164 個 40.9 % 生理: 30/40 個 75.0 %	検体68/162 個 41.9 % 生理: 30/40 個 75.0 %	検体68/162 個 41.9 % 生理: 30/40 個 75.0 %	院内で実施する検体検査で検査科受付後60分以内の報告、および生理検査で当日報告の可能な緊急対応可能検査項目数とその割合(緊急対応可能検査項目数÷全体検査項目数×100)	院内で実施する検査のうち、救急患者や入院患者の急変などに対応し、院内で緊急に行える検査がどのくらいあるかを表しています。
緊急検査のTAT(ターンアラウンドタイム)	32:14:00 分 秒	29:30:00 分 秒	27:40:00 分 秒	病院で実施する生化学検査における、緊急検査依頼の検査科受付から報告確定までの平均時間	TAT(ターンアラウンドタイム)とは検体が検査科に来てから検査結果が確定するまでの時間のことです。検査結果を迅速に報告することで、医師が治療方針を早期に決定することができ、医療の質向上に寄与します。
CT、MRI、血管造影、マンモグラフィの検査人数	CT 12,700 人 MRI 8,670 人 血管造影 254 人 マンモ 2,006 人	CT 12,799 人 MRI 8,644 人 血管造影 343 人 マンモ 1,767 人	CT 12,816 人 MRI 7,943 人 血管造影 417 人 マンモ 1,818 人	CT、MRI、血管造影、マンモグラフィの検査患者数	検査の中でも件数の多い、CT、MRI、血管造影、マンモグラフィそれぞれの検査患者数です。
放射線及び検査に関する指標 ・冠動脈CTの件数 ・大腸CTの件数 ・心臓MRIの件数 ・乳房MRIの件数	冠動脈CT 208 件 大腸CT 0 件 心臓MRI 11 件 乳房MRI 1 件	冠動脈CT 184 件 大腸CT 0 件 心臓MRI 11 件 乳房MRI 87 件	冠動脈CT 222 件 大腸CT 0 件 心臓MRI 16 件 乳房MRI 76 件	年間の冠動脈CTと大腸CTの検査患者数(今までのCT検査患者数に、追加で「冠動脈CT」及び「大腸CT」の検査患者数を別々に表示する)	【説明】 特色のある検査(冠動脈CT・大腸CT)が行われていることは、高度な撮影技術を駆使して専門性の高い検査を実施していることを表す。
放射線及び検査に関する指標 ・CT、MRI検査の予約外当日検査の件数	予約外当日検査の件数 件 CT 7,307 件 MRI 2,226 件	予約外当日検査の件数 件 CT 6,644 件 MRI 1,600 件	予約外当日検査の件数 件 CT 6,813 件 MRI 1,405 件	年間のCTとMRIの予約外受け入れ検査患者数(今までのCT・MRI検査患者数に、追加で当日予約外検査の患者数を別々に表示する)	【説明】 救急はもとより、予約外の検査を積極的に受け入れることは早期診断・治療に役立ち、急性期病院としての診療支援体制が充実していることを表す。
臨床検査に係る精度管理調査評価点	日本医師会 点 98.9 日臨技 99.1 %	日本医師会 点 99.2 日臨技 100.0 %	日本医師会 点 99.1 日臨技 99.6 %	外部精度管理における日本医師会臨床検査精度管理調査の結果(評価項目修正点数)、日本臨床検査技師会精度管理調査の結果(AB評価%)	日本医師会は、総タンパク、ブドウ糖、尿酸など検体検査40以上の検査項目について、サーベイを実施した結果の項目修正点数(100点満点)です。日臨技は、検体検査、微生物、輸血、生理、病理、細胞など180以上の評価項目について、サーベイを実施した結果の望ましいとされる評価A、評価Bの件数の割合です。
放射線科医師による読影レポート数	53,758 件	54,198 件	53,800 件	放射線科医師によって作成された、CT、MRI等検査にかかる読影レポート数	放射線科の医師による専門的見地から、検査結果に基づいた画像診断・助言を行っている件数です。
ME機器点検実施件数	4,360 件	4,681 件	4,797 件	ME機器(医療機器)の日常点検、定期点検の件数(臨床工学技士実施分)	ME機器の使用時の故障を未然に防ぎ、検査の安全性を保つために、使用前や使用後及び一定の期間毎に行っている点検の件数です。
6 薬剤に関する指標					
指標項目	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	定義、指標計算方法等	説明コメント
服薬指導件数(入院・外来)	入院 12,644 件 外来 5,625 件	入院 12,785 件 外来 5,047 件	入院 11,693 件 外来 5,005 件	(入院)入院服薬指導業務指導件数 (外来)外来服薬指導業務指導件数	患者さんへの薬物療法の効果や副作用などの説明・アドバイスを通じて、患者さんの薬物療法への理解を深めるとともに、より安全で効果的な薬物療法を受けられるよう薬剤師が活動した件数です。
ジェネリック使用率	86.7 %	89.0 %	89.7 %	「後発医薬品の数量」÷(「後発医薬品のある先発医薬品の数量」+「後発医薬品の数量」)※数量とは、薬価基準告示上の規格単位ごとに数えた数量をいう。	当院における入院医療で使用される全薬剤のうちジェネリック(後発医薬品)の割合です。ジェネリックは開発コストが大幅に削減されているため、先発医薬品に比べると安価になるなどの特徴があります。
薬剤師による抗がん剤等のミキシング数(処方箋枚数)	1,423 件 うち入院 521 件 うち外来 902 件	1,294 件 うち入院 468 件 うち外来 826 件	1,642 件 うち入院 643 件 うち外来 999 件	抗がん剤ミキシング件数	薬剤師が安全キャビネットなどを使用して、抗がん剤のミキシングを行った処方箋枚数です。

荏原病院 クリニカルインディケーター

7 栄養に関する指標					
指標項目	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	定義、指標計算方法等	説明コメント
栄養食事指導件数（個別・集団）	個別 3,020 件 集団 222回 1,142 人	個別 2,611 件 集団 219回 1,233 人	個別 2,695 件 集団 202回 1,169 人	個別栄養食事指導件数、集団栄養食事指導回数及び人数	患者さんに対して、医師の指示により管理栄養士が食事療法について説明し、食生活改善の支援を行っております。個人の生活スタイルに合わせた個別指導と教室形式で行う集団指導があります。
入退院支援件数	-	-	入院前支援 24 件 退院支援等カンファレンス参加件数 23 件	・入院前に栄養評価、食物アレルギーの詳細聞き取り等を行い、入院一食目から適切な栄養管理や食事提供に結びつけた件数 ・入院後、退院支援に繋がる病棟カンファレンスや退院前カンファレンスに参加した件数	入院前に食欲不振、体重減少、食物アレルギー等の有無を確認すると共に栄養評価を行い、入院1食目から安全で適切な治療食提供を行っています。また、退院後も適切な栄養管理ができるよう、多職種が連携して行う退院支援のためのカンファレンス等に栄養士が参加しています。
栄養サポートチーム（NST）活動件数	回診回数 47 回 延べ人数 206 人	回診回数 51 回 延べ人数 231 人	回診回数 50 回 延べ人数 283 人	栄養サポートチーム（NST）回診回数・回診延べ人数	栄養サポートチーム（NST）とは栄養管理を管理栄養士、医師、看護師など様々な医療スタッフによって支援・実施するチーム医療のことです。定期的にメンバーによる回診等を行い、患者さんの状況を確認して適切な栄養療法を検討しています。
栄養情報提供書発行件数	- 件	25 件	53 件	栄養情報提供書を発行した件数(栄養サポートチームが対応した患者について、転院先の医療機関や入所先の高齢者福祉施設等に発行した栄養治療計画書の件数も含む)	栄養情報提供書の発行は継続した栄養管理を目的とし、食事を提供中の入院患者さんが他施設へ転院される際、当院での食事内容や喫食状況を記載しています。
8 リハビリテーションに関する指標					
指標項目	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	定義、指標計算方法等	説明コメント
リハビリテーション実施患者の在宅復帰率	-	-	66.8 %	在宅復帰件数/全リハビリテーション実施患者数	リハビリテーションを実施した方のうち、自宅へ退院した方の割合です。
入院日からリハビリテーション処方日までの日数	-	-	当日～2日目 53.5 % 3日～5日 18.9 % 6日以降 27.6 %	入院日-リハビリテーション処方日 「当日～2日目」、「3日～5日」、「それ以降」、の各割合を算出	入院後なるべく早期からリハビリテーションを開始することが、合併症の予防やその後の生活の質の向上につながる、とされています。
リハビリテーション依頼の科別割合	神経内科17.0 内科29.6 整形外科21.9 脳外科12.7 リハビリ科6.8 外科8.9 精神科1.0 その他2.1 %	神経内科15.5 内科28.5 整形外科20.6 脳外科11.4 リハビリ科9.1 外科9.1 精神科2.3 その他3.5 %	神経内科 10.8 内科 31.1 整形外科 19.4 脳外科 15.1 リハビリ科 11.6 外科 7.4 精神科 2.5 その他 2.2 %	依頼科件数/全依頼件数 を各科ごとに算出	どの診療科への依頼件数が多いかを知ることは、その病院が力を入れて提供している医療を知るための、ひとつの手掛かりになります。
9 看護に関する指標					
指標項目	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	定義、指標計算方法等	説明コメント
褥瘡発生率	1.12 %	0.95 %	1.16 %	[院内褥瘡発生数/（当月の新入院患者数+前月終日在患者数）]×100	褥瘡とは、長時間の圧迫などにより皮膚が循環障害を起こし傷となる、いわゆる「床ずれ」の状態をいいます。当院では、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士など様々な職種により構成される褥瘡対策チームが中心となり治療・ケアをして褥瘡発生防止に努めています。この褥瘡発生率は看護ケアの質評価の重要な指標とされています。
患者・家族のケア満足度	87.0 %	85.0 %	85.0 %	患者満足度調査における入院・外来（平均）のケア満足度	入院、外来の患者さんに当院の看護師の対応についてアンケートを行った際に、「十分」、「ほぼ十分」と答えた方の割合です。今後も高いケア満足度を目指して医療サービスの向上を図っていきます。
10 医療安全に関する指標					
指標項目	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	定義、指標計算方法等	説明コメント
転倒・転落率	0.2 %	0.2 %	0.2 %	インシデント・アクシデントレポートが提出された転倒・転落件数÷期間中の入院患者数×100	入院している患者さんの中には年齢や病気の影響により、転倒したり、ベッドなどから転落したりする可能性が高い方もいます。転倒・転落の原因や要因について分析等を行い、予防策を講じて、転倒・転落を防いでいます。
● 転倒・転落による損傷発生件数	10 件	10 件	18 件	転倒・転落により公社インシデント・アクシデント分類の3b以上（濃厚な処置を要した、例えばバイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術、入院日数の延長、骨折など）の発生件数	患者さんごとに転倒・転落のリスクを把握し、療養環境の整備や安全物品の活用などの予防策を講じて安全安心な医療を提供しています。
医療安全研修 情報セキュリティ研修	医療安全 23 回 情報セキュリティ 9 回	医療安全 19 回 情報セキュリティ 8 回	医療安全 19 回 情報セキュリティ 5 回	年度内の開催実績数	職員の医療安全意識の向上を図るとともに、病院全体の医療安全を向上させることを目的とし、医療安全研修や情報セキュリティに関する研修を実施しています。

荏原病院 クリニカルインディケーター

11 地域連携に関する指標					
指標項目	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	定義、指標計算方法等	説明コメント
紹介・逆紹介患者率	紹介率 65.8 % 逆紹介率 67.6 %	紹介率 66.8 % 逆紹介率 74.9 %	紹介率 74.6 % 逆紹介率 87.6 %	地域医療支援病院の紹介率、逆紹介率 ・紹介率 (初診患者数 - (救急搬送患者数・休日又は夜間に受診した救急患者数 (救急搬送患者を除く) + 健康診断目的に受診・治療した患者数)) × 100 ・逆紹介率 (初診患者数 - (救急搬送患者数・休日又は夜間に受診した救急患者数 (救急搬送患者を除く) + 健康診断目的に受診・治療した患者数)) × 100 ※平成26年度までの、紹介率算出式は下記のとおり。 (紹介患者数 / 初診患者数) × 100	他の病院または診療所から紹介状により紹介された人の割合 (紹介率) 及び当院から他の病院または診療所に紹介した人の割合 (逆紹介率) です。当院は地域医療支援病院に指定されており、そのための要件の1つにもなっています。今後も地域で信頼される病院作りに努めていきます。
地域連携バス実施数	0 人 2 個	0 人 2 個	0 人 2 個	地域連携バスごとの使用患者数	患者さんの病気の回復過程に応じて、急性期・回復期・維持期・在宅療養における治療と必要な情報が切れ目なく推進するための診療計画を作成し、治療を受けるすべての医療機関で共有して用いています。診療にあたる複数の医療機関が、役割分担を含め、あらかじめ診療内容を患者に提示・説明することにより、患者さんが安心して医療を受けることができるよう努めています。
医療従事者等研修会開催数、広報誌発行部数	研修会 61 回 広報誌 2,200 部	研修会 69 回 広報誌 2,300 部	研修会 60 回 広報誌 2,300 部	医療従事者を対象とした研修会等の開催件数、広報誌 (病院だより、医師プロフィール) 発行部数	地域の中核病院として、地域の医療機関への情報提供等を積極的に実施しています。
連携医数、高額医療機器の共同利用件数	1,891 人 4,034 件	1,903 人 4,127 件	1,903 人 4,100 件	連携医数、主な高額医療機器 (MRI、CT、RI) の共同利用件数	連携医として登録をしている地域の医師、歯科医師の数及びMRI、CT、RIなど的高額医療機器を連携医と共同で利用した件数です。地域医療支援病院として地域との連携強化を引き続き図っていきます。
12 医療サービスに関する指標					
指標項目	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	定義、指標計算方法等	説明コメント
患者満足度	入院 91.9 % 外来 78.9 %	入院 85.9 % 外来 75.1 %	入院 90.3 % 外来 81.5 %	「あなたは全体としてこの病院に満足していますか。」という問いに対し「満足」「ほぼ満足」と回答した割合 (入院・外来)	当院が提供する医療サービスに対して、患者さんがどのように感じているかを把握し、医療サービスの一層の充実を図るために実施しています。引き続き、高い患者満足度を維持・向上できるように努めていきます。
13 医師・看護師・コメディカルの資格等に関する指標					
指標項目	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	定義、指標計算方法等	説明コメント
資格認定医師、専門医師数	別紙1のとおり	別紙1のとおり	別紙1のとおり	調査時点の人数 (常勤職員+月16日以上勤務非常勤)	当院には各学会等で認定された、高度な知識や技術、経験を持った職員がいます。より質の高い医療サービス提供のため、多くの職員が認定を取得していくよう、人材の育成に取り組んでいます。
認定看護師数				調査時点の人数 (常勤職員)	
コメディカル部門の認定者・専門者数 (放射線、検査、薬剤、栄養)				調査時点の人数 (常勤職員)	
14 病院独自の指標					
指標項目	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	定義、指標計算方法等	説明コメント
● SCU病床の入院患者数	270 人	296 人	288 人	SCU病床の病床別入院患者数	「脳卒中専門棟 (SCU)」を備えた「総合脳卒中センター」において、神経内科・脳神経外科・リハビリテーション科・放射線科の各科医師を中心とし、専門看護スタッフ、専任ソーシャルワーカーなどによる医療チームを編成し、脳卒中患者さんに対する高度専門医療を行っています。SCU病床での、入院患者実績です。
● t-PA投与患者数	10 人	12 人	12 人	t-PA投与患者数	t-PAは血管内の血のかたまり (血栓といいます) を溶かす薬剤です。血栓による脳梗塞が起きた直後に t-PA で治療をすると症状が良くなることが多いと言われています。この実施件数は、脳梗塞に対する緊急治療を積極的に行っているかどうかの目安になります。
● 高血圧治療の疾病別患者数	総数 518 突発性難聴 167 骨髄炎、放射線性壊死 130 空気塞栓、減圧症 58 腎臓神経疾患 46 末梢循環障害 36 スポーツ整形 25 腸閉塞 15 脳血管障害、重症頭部外傷または開頭術後の運動麻痺 12 急性腎臓障害 10 急性一酸化炭素中毒、ガス中毒 7 ガス壊疽、壊死性筋膜炎、壊疽性筋膜炎 5 網膜動脈閉塞症 4 放射線または抗癌剤治療と併用される悪性腫瘍 2 低酸素性脳機能障害 1	総数 378 突発性難聴 175 骨髄炎または放射線性壊死 85 難治性潰瘍をともなう末梢循環障害 33 放射線または抗癌剤治療と併用される悪性腫瘍 20 腎臓神経疾患 20 腸閉塞 15 脳血管障害、重症頭部外傷または開頭術後の運動麻痺 8 重度の急性腎臓障害 6 自費 (スポーツ整形含む) 6 ガス壊疽、壊死性筋膜炎、壊疽性筋膜炎 3 網膜動脈閉塞症 3 皮膚移植 2 急性末梢血管障害 1 脳梗塞、重症頭部外傷もしくは開頭術後の意識障害または脳浮腫 1	総数 239 突発性難聴 148 腸閉塞 23 骨髄炎又は放射線障害 19 腎臓神経疾患 15 放射線又は抗癌剤治療と併用される悪性腫瘍 10 難治性潰瘍を伴う末梢循環障害 10 自費によるもの 6 重症軟部組織感染症 (ガス壊疽、壊死性筋膜炎) 又は頭蓋内膿瘍 4 網膜動脈閉塞症 2 急性末梢血管障害 (重症の熱傷又は凍傷、広汎挫傷又は中等度以上の血管断裂を伴う末梢血管障害、コンパートメント症候群又は圧症候群) 1 重症頭部外傷後若しくは開頭術後の意識障害又は脳浮腫 1	高血圧治療の主要疾病別患者数	高血圧治療とは、通常の気圧より高い圧力環境のもとで酸素を吸入することで、血液中にたくさん酸素を溶かし体内の酸素濃度を上げる治療です。体内の酸素濃度を上昇させること、高い圧力を体にかけることで、様々な効果が得られます。当院の高血圧治療での、疾病別の患者実績です。
● 分娩数	542 件	581 件	735 件	分娩件数	当院ではできるだけ自然な分娩を推奨しています。妊娠健診は医師だけではなく助産師による健診も行い、分娩までの過程には小児科医や栄養士などと協力しチーム医療に取り組んでいます。

● : 病院独自指標

